

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ～オリパラ教育を通じて～

福本 泰之（長生）

大野 雅友（夷隅）

笹子 竜侍（安房）

吉田 周平（君津）

菅野 拓也（木更津・袖ヶ浦）

鶴岡 俊太（市原）

1 はじめに

夏季オリンピック・パラリンピックが半世紀ぶりに日本国内で開催されることは大変喜ばしいことであり、学ぶことがたくさんある。また、生徒にとっては、世界中から集まる一流選手が競技する姿を見て目標にしたり、新たな発見をしたりするだろう。さらに、大会期間中に多くの試合からスポーツに関する知識が増え、疑問もたくさんもつことだろう。特に、普段触れる機会の少ないパラリンピック競技では、行われる競技全てが新鮮なものとして感動に結びつくのではないだろうか。

このチャンスを生かし、未来を生きる生徒に、スポーツの祭典であり平和の祭典である、オリンピック・パラリンピック競技大会について学習させる機会を与えることは意義あることだと考える。

このような中で我々中学校Cグループでは、新学習指導要領で求められる力とオリンピック・パラリンピック教育を合わせて学校で指導に役立つ資料を提供できないかと考えた。

2 実践例

各学校（県の事業との関連も含めて）で取り組んでいるもの、それぞれの学校で実践、指導したことを持ち寄り、生徒が運動に主体的に取り組み、対話的に授業を進められるような実践を行った。

（1）これまでの実践

①オリンピック・パラリンピック教育全体計画

各学校で取組を行う際、学校教育全体を考え、全体計画の作成をする。この計画は、学校教育目標を達成させるための計画でもある。今回のオリンピック・パラリンピックをただのスポーツの祭典として捉えるのではなく、平和への貢献というオリンピックの目指す方向性も考えることが必要であるため、おもてなし・心のバリアフリー・スポーツ・グローバルという4つのプロジェクトとしての全体計画を立てた。

②スポーツの多様な関わり方への意識を高める体育理論

ア「オリンピズムについて考えよう」

- ・ワークシートに沿って進める授業

オリンピズムとは何かを、個人で考えたりグループで話し合ったりすることで、自分の考えを伝えたり仲間の考えを聞いたりすることができる。

イ「オリンピック・パラリンピックでの関わり方、支えている人を知ろう」

- ・する、みる、支える、知るスポーツについて考える授業

オリンピックが行われている映像や資料から、選手以外のたくさんの人が大会を支えていることを知る。また、パラリンピックの陸上競技では、視覚障害選手が長距離種目に出場する際、ガイドランナーをつけたり、走幅跳では、ガイドやコーラーと呼ばれる人をつけたりと選手を支える人の苦勞を考える授業を行った。

ウ「体育祭での多様な関わり方を知ろう」

- ・アとイの学習から学校生活に生かす実践

運動が得意な生徒だけが活躍する場ではなく、様々な人の支えや活動で体育祭が行えることを理解し、実際の体育祭運営に関わっていく。当日、保護者や地域の方が体育祭を見て、「元気が出た。」「楽しかった。」という感想もあり、さらに関心が高まる結果となった。これらから考えると、体育祭をいわば、ミニオリンピックとも言える行事にすることができ

た。そして、東京オリンピック・パラリンピックを身近な大会として、捉えることができたのではないか。

エ) 「リレーのバトンパスについて考えよう」

- ・陸上競技のリレーのバトンパスについて考える授業

リオデジャネイロオリンピック(2016年)の陸上競技男子4×100mRで日本チームは、銀メダルを獲得した。9秒台で走る選手がいたわけでもなく、海外の選手と比べても恵まれた体型ではない4人の選手が、銀メダルを獲得できたその技術・戦術・作戦を考えさせた。それぞれの考えをグループごとに話し合い、授業に生かし実践した。

オ) 「オリンピック選手に挑戦しよう」

オリンピック選手に関係する長さをメジャーに表し、その記録に挑戦させた。例えば、陸上競技男子100mの世界記録9秒52を出したウサインボルトの歩幅は、平均2m75cm。最大2m99cmとされている。この記録を立幅跳びや走幅跳で挑戦させたり、この記録を越えるための方法はないか考えさせた。同様に、男子砲丸投(7.21kg)の世界記録23m12cmをハンドボール投げで挑戦させた。

(2) 今後也能する実践

オリンピック・パラリンピックの開催に向けて各学校でも実践してきたが、1年程度の延期となっているため、計画されていた実践も一時停止となっている。そこで、今後也能する実践として、予定されているオリンピック・パラリンピック教育を以下の表に示した。

<p>するスポーツ 【ボッチャ(パラリンピック種目)】</p>	
<p>主体性☆☆☆ 対話☆☆☆ 体力☆☆ 思考力☆☆☆</p>	<p>ボッチャは6人1組で、赤青の2チームに分かれて行うスポーツである。バレーボールコート半面程度の広さで競技ができる室内スポーツであり、目標となる白いボールにいかにか近づけるかを競い合う。自分のボールをどれだけ近づけられるかというボールをコントロールだけでなく、相手チームのボールをどうやってはじき出したりするかなどの作戦も必要となる。手軽なスポーツであり、チーム内での作戦が必要となる。 備考：20,000円前後(1セット) ※スポーツ団体から借りることも可。</p>
<p>するスポーツ 【ゴールボール(パラリンピック種目)】</p>	
<p>主体性☆☆☆ 対話☆☆☆ 体力☆☆ 思考力☆☆☆</p>	<p>目隠ししながら鈴の入ったボールを転がし、ゴールに入れることで得点とする視覚障害者の球技。1チーム3人でバレーボールコートのエンドラインの幅9mのゴールにボールを何点入れられるかを競う。視覚情報を得られないため集中力とチームでの協力性が必要となる。また、“静寂”という応援も独特のものであり、審判の「Quiet」という合図で会場がシーンとする。「するスポーツ」に分類したが、パラリンピック大会の実際の競技を見てほしい。 備考：2,000円前後(授業用ボール)</p>
<p>するスポーツ 【シッティングバレー(パラリンピック種目)】</p>	
<p>主体性☆☆☆ 対話☆☆☆ 体力☆☆☆ 思考力☆☆☆</p>	<p>床に臀部が着いた状態で行うバレーボールである。自コートの広さが縦5m×横6mと一般的なコートより狭く、ネットの高さは男子1.15m、女子1.05mである以外はほぼ通常の授業で行うルールと同じである。そのため、授業で行う場合は、バドミントンコートを使用すると良い。ボールをコントロールする技術が特に必要となるが、体幹の強さも大事な要素となる。また、当然のことであるが、チームでの作戦や協力性が必要になる。 備考：特に費用は必要なし</p>

見るスポーツ 【テコンドー（オリンピック・パラリンピック種目）】	
主体性☆☆ 対話☆☆☆ 体力☆ 思考力☆☆☆	<p>韓国発祥のスポーツで、センサーの付いたプロテクター・ヘッドギア・ソックスを着用して頭部・胴体への蹴り、胴体へのパンチで得点を競う。回転を加えた攻撃になると高得点になる。素早い攻撃が必要となるが、より大会得点を取るためには、柔軟性も必要となり見所にもなる。</p> <p>※テコンドーは、オリンピック・パラリンピック両方の種目になっているが、日本発祥の空手は今回初の種目になるが、日本武道館での開催になる。観戦する前後の指導が重要となる。</p>
見るスポーツ 【ゴールボール・シッティングバレー】	
主体性☆☆ 対話☆☆ 体力☆ 思考力☆☆☆	<p>上記の“するスポーツ”にも紹介したが、これらのスポーツは、千葉県内での開催になる。そのため、県内のいくつかの小中学校が観戦できる予定である。また、オリンピック種目では、フェンシングやレスリング、パラリンピック種目では、車椅子フェンシングも千葉市で開催される。さらに今大会初となるサーフィンが一宮で開催される。</p> <p>これらの競技を中心に実際の競技を見ることで、たくさんのことを学べるのではないかと考える</p>
支えるスポーツ 【他教科との関わりで（サーフィン）】	
主体性☆☆ 対話☆☆☆ 体力☆ 思考力☆☆	<p>一宮会場の入場ゲートを花（ひまわり）で作っておもてなしをしようとするもの。訪れる方も育てた小中学生も温かな気持ちになれる活動である。他の会場でも同様の活動がある。</p> <p>保健体育の授業での実践ではないが、スポーツを支える活動であり、各学校で工夫した活動ができると考える。この他にも、キャンプ地となっている市の学校では、外国語での挨拶、地図作りなどを行っているところもある。</p>

※これらは今年度予定されていたもので、2021年度に必ず実施されるというものでもない。

3 結果と考察

2の実践を通して、「これまで知らなかったオリンピック・パラリンピックについて知ることができた。特に、パラリンピックについては、新しく知ることができた。」という生徒が多かった。また、ボッチャやゴールボールを実際に体験することで、体に不自由があってもスポーツを楽しむことができることやそういった方々をサポートすること、ルールを工夫すればスポーツを楽しめる人の数も増えるという思考につながった。これらの実践を通して生徒の意識も変わった。

オリンピック選手の記録に挑戦し、世界の頂点に立つ難しさを実感しただけでなく、自分との身長差から数学で学んだ比の勉強を使い、ボルトと同じ身長だったらどのくらい跳べるかなどを考える生徒もいた。

今後、延期になったオリンピック・パラリンピックが開催され、計画されていたことが実践されれば、もっと主体的に学ぶ生徒が増えるのではないかと期待する。

4 課題

オリンピック・パラリンピックに向けた実践を行ったが、まだ実際に行われていないため、期待される結果が出るかどうか分からない。

今回は夏季大会についての実践だったが、冬季大会についての主体的な学びをしていく必要もあると感じた。